

<p>横浜市小学校社会科研究会 6 学年部会</p> <p style="text-align: center;"><i>研修会記録</i> 第 5 号</p>	<p>令和 3 年 1 月 1 3 日</p> <p>横浜市小学校教育研究会 会長 相沢 昭宏</p> <p>横浜市小学校社会科研究会 会長 梅田 比奈子</p> <p>同 学年部長 古橋 望</p>
---	---

<p>【提案日】 1 2 月 2 日 (水)</p>	<p>提案者 鈴木 亮 先生 (下田小)</p> <hr/> <p>司 会 浦川 裕貴 先生 (洋光台第四小)</p> <hr/> <p>記 録 山口 曉風 先生 (小田小)</p>
<p>【会場】 横浜市立平沼小学校</p>	

1 ミニ提案 6 学年部会 末吉小学校 宮原美由紀先生

【概念的知識を獲得しようとする姿はどのような子どもの言葉で表現されているか。】

- ・概念的知識の獲得とは、具体的な知識を積み上げていくこと。
- ・具体的な事例(信長と秀吉の比較など)を通して、抽象的な概念的知識を獲得していく。
- ・ふり返りを教師がじっくり読み込むことで、子どもたちがこの学習からどんな概念的知識を得ることができたかを理解することができる。
- ・どんな概念的知識を得たか、教師が把握するために、ふり返りを大事にした授業を行っていく必要がある。

2 実践提案 6 学年部会 鈴木亮先生

単元名 「江戸時代が 260 年続いたのはなぜか ～参勤交代 楽ありゃ苦もあるさ～」

単元を見通す学習問題：「江戸時代は、なぜ 260 年も続いたのだろう」

本気の学習問題：「参勤交代は幕府に対する不満となりそうな政策なのに、なぜ一度も不満が出なかったのだろう」

視点 1 子どもの予想と見通しを大切にした単元づくりに対する手立て

手立て①単元を見通す学習問題を立てる上で、既習事項とのずれを意図的に設定し、追究の意欲付けとした。

手立て②ずれを生むための教材開発、教材研究 著書『日本人と参勤交代』

手立て③260 年続いた理由を子どもが追究するにあたり、立ち止まりを与えられるような単元構想を行った。『本気の学習問題』にあたる単元の山場には参勤交代を取り上げようと考えた。

【社会的事象を子どもたちが多角的に追求していく手立てとなったか】

- ・参勤交代では、幕府が意図して大名を楽しませていたのか。
- 意図したものではない？大名も江戸に行くことにメリットを求めているのではないか。

視点2 本気の学習問題を追究し、社会的事象の意味に迫る授業づくりに対する手立て

手立て①対話を重ねて、概念的知識を獲得する授業展開

手立て②対話を重ねるために、意外性のある教材の用意と子どもの見取りを行った上での本時を設定した。

【本時の授業で、対話がどう生きていたか。】

- ・注目児童以外の児童の様子を知りたい。

(ついてこられていない子が4・5人)

- ・授業記録を見て、大名たちに本当に不満はなかったのか疑問に思う。
- ・幕府の政策がどうだったのかを考えさせて、「鎌倉時代は260年続いたからこそ価値がある」という、鎌倉幕府を肯定的に捉える授業でよかったのではないか。
- ・資料の内容(参勤交代に対する不満が一度も出なかったこと)は、本当に事実なのか。資料の出し方を工夫して、一つ紹介するものとしてだす資料でもよかったのでは。
- ・抽出児童一人を中心に、“対話”を意識した授業を考えていたが、他の子どもたちにもフラットな立場で考えられるとよい。C17-先生だけではなく、他の児童との関わりで落としていく必要がある。

3 指導講評 野間 義晴校長先生(菊名小学校)

○教材について

- ・6年生は、児童の知識量に差があり、授業づくりが難しい面もある。
- ・江戸幕府の260年は、参勤交代が弱体化して終わったわけではない。
- ・幕府側や大名側など、様々な立場から考えさせるには、よい資料。
- ・異なる見方を考えさせるのが、教師の役割。

○対話について

- ・対話には、「子ども—子ども」、「子ども—教師」、「子ども—教材」の3つがある。
- ・今回の提案は、子どもたちの意識に揺さぶりをかけた“子ども—教材”を考えさせられたよい提案。
- ・注目児童の考えを広げることで、他児童の見方が広がっていく。学力差を埋めるためのヒント。

○歴史を学ぶ意味

- ・何のために歴史を学ぶのかを共有しながら学習することで、子ども自身が概念的知識を獲得していくこと。
- ・教師は、子どもの笑顔のために、知識や資料を押し付けないようにしたい。

文責 呉屋 雄紀(師岡小学校)